



日本を発信 がんばろう ウクライナ

Was Xi Jinping Irked by Kishida's Surprise Ukraine Visit?
(習近平氏は岸田文雄首相のウクライナ電撃訪問にイラついていたのか)

ロシアとの戦争で日本に避難してきたウクライナの人たちのために、何かできることはないか。

英語ニュースオピニオンサイト「JAPAN Forward (JF)」のチームがそんな議論をしていたところ、ウクライナの避難民たちを支援する目的でウクライナ料理店が開店したのを知った。早速、お昼を食べに行った。

店の名前は「スマチノーゴ」。ウクライナ語で「おいしく召し上がり」という意味だ。東京・新橋のビル2階にある店に入ると、ウクライナからの避難民という女性が迎えてくれた。

店内の壁には、水色と黄色の同国国旗が描かれ、しゃれた空間だ。ウクライナ料理と和食の「フュージョン料理」が売りである。和風だしのポルシチやキーウ風カツレツなど、いずれもあっさりとした味に仕上がっていた。

食後、お店で働く女性たちと話すと、彼女たちは子供連れで日本で避難生活を送り、夫たちは祖国で戦っているという。祖国には一刻も早く帰りたいが、それがかなわないと、避難先の日本で働くことができ、店を企画したTAKANEさんにはとても感謝していると話していた。

それならば、彼女たちを元気づけるためにお店を借りて子供たちも招き、JFチーム、サポーターと交流して子供たちの支援につなげるイベントができるか、店に相談してみた。結論は、不可能ではないが、かなり難しいというものだった。

子供たちは、長期化する日本での暮らしになじもうと日本は日本の学校に通って一生懸命日本語を学び、夕刻から夜には祖国ウクライナの学校のオンライン授業を受けている。子供たちの日程やお店を貸し切ることができる日、JF側の日程などを考慮に入れると、確かに簡単ではなさそうだ。

JFは考えた末、使用済みコーヒー豆を再利用して作ったマグカップをJFサポーターたちに買ってもらい、その収益を子供たちに寄付することにした。サポーター企業の一部が早速、まとめて購入する意向を示してくれている。



がんばろうウクライナマグカップ(スプーン付き)を販売!

容量は370ml。1個1000円(税込)、送料1000円が別途必要。収益は「スマチノーゴ」で働く14人のウクライナの避難民家族に贈ります。お問い合わせ・お申し込みは、メールinfo@japan-forward.comまで。

「ひこばえ俱楽部」投書・イラスト募集

25歳以下の投書やイラストを掲載する「ひこばえ俱楽部」では、社会人や大学生、小・中・高校生のみなさんからの投稿をお待ちしています。学校単位の応募も大歓迎です。

投書やイラストには「ひこばえ俱楽部」年齢(生年月日)、職業(学年)、郵便

番号、住所、電話番号を付記。添削することもあります。二重投稿はご遠慮ください。原稿は返却しません。掲載作品は産経新聞社の記事データベースに収録し、デジタル・出版部門の他媒体に転載するほか、外部への情報提供サービスなどで二次利用することもあります。採用された方には図書カードを進呈します。



岸田文雄首相のウクライナ電撃訪問と中国について伝えるJFの画面



青木陽翔 12 (神奈川県松田町 中学生)

ひこばえ俱楽部



田邊蓮貴 6 (東京都杉並区 小学生)

まだ遠い「ノーマスク生活」

大学生 上野未優菜 21

マスクをつけることが個人の判断に委ねられるようになったが、外出時の周囲の様子やアルバイトの時にお客さまの様子を見ても、まだマスクを外している人は少ないようだ。

コロナウイルスがはやり始めて、もう3年以上がたっている。当たり前のようにマスクをしてきたため、外してよいということにならなくななかな習慣を改めることができない。

初めのころは暑苦しく、つけることが苦痛だったマスクだが、今ではマスク越しの顔しか知らない人も多い。電車など交通機関に乗るときや人が多くいる場所ではマスクをしていないと気が済まないようになってしまった。

しかし、考えてみると私たちは3年前まではマスクなしで過ごしていた。私の人生でマスクなしの生活の方がずっと長かったのだが、マスクなしの生活に戻るのはそんなに簡単なことではなさそうだ。

(大阪府四條畷市)

私はこの春、高校2年生に進級し、それと同時に上履きを新しいものに変えました。昨年使用していた上履きは、きつくなっています。新たな上履きは、サイズが私の足にぴったりで、とても履き心地が良いものでした。昨年度使った上履きは、サイズが合わないためもう履くことはない。はじめはそう考え捨てようとしたのですが、私は心残りが2つありました。1つは、その上

共に歩んだ上履き思い出に

高校生 河本春菜 16

履きはサイズが合わなくなつただけで、見た目はきれいなままだったことです。もう1つは、高校1年生の上履きも、学校で常に私を支えてくれていたのは、その上履きを捨てないことです。その上履きを捨てるといふことです。結果として、私はその上履きを捨てることになりました。今は家に保管しておらず、上履きは高校1年生の思い出の品の一つへと姿を変えました。(東京都立川市)

友達関係って難しいです。私は友達関係は公園にあるシーソーのようなものだと思っています。シーソーには2人が乗っています。片方が相手に近づきすぎるとバランスが崩れてしまいます。逆に片方が相手から離れていてもバランスが崩れて傾いてしまいます。逆に片方が相手から離れていてもバランスが崩れて傾いてしまいます。シーソーは、相手との間の距離も大切ですが、重さも大切です。重さは相手を思いやる心の強さだと思います。

シーソーに例える友達関係

中学生 中村美優 12

なかなかバランスをよくすることはできません。だからといって、友達がないのはさみしいです。だから、私はもう思いますが、「離れます、近づきます」の友達関係が良いのです。離れます、近づきますの離れすきす、近づきすはいかないと。そうするとちょうど良いバランスがとれて、良い友達関係ができるかもしれません。大切な友達関係ができます。思えるような良い友達関係を作っていました。(高松市)

私が中学生になったときが2つあります。1つ目は、朝急いで制服の袖に腕を通してます。小学生のときは自分の好きな色の服、天気に合う服を選んで着ていましたが、中学生には制服があります。小学生的な色の服、天気に合う服を買いました。ワイシャツやブレザーなど決まった服を着るので、中学生には制服が好きです。2つ目は登下校のときで、学校へ行く道の分かれ道がだと実感します。夜、明日の準備をするとき、もう小学生じゃないんだけれど、小学生じやないんだけれど、実感します。

制服と新たな道に成長実感

中学生 小座間雅梅 12

あります。小学生がランドセルで歩いている間に、一方中学校の道はリュックをショットで、みんなもバランスをよく歩いています。でも私は中学生にならなかった実感を感じながら大人にならなかった実感を感じたいです。(東京都東大和市)